

中学生連載企画 私たちのふるさと松山学 No.51

南中学校

南中学校で続く命の授業

南中学校では、過去に大切な仲間を失う悲しい出来事がありました。その経験から私たちの先輩は、命の尊さを必死に考えてきました。現在も、「命の授業」を通して全校生徒が命について考えています。

3つの取り組み

南中学校で続く命の授業は「救命救急講習」「命の講演会」「命の集会」の3本柱で行っています。この授業を通して、命の大切さや、命をどう守っていくかを学んでいます。

①救命救急講習

緊急時に救命行動をとれるよう、毎年、赤十字救急法指導員の人たちから心肺蘇生法やAEDの使い方を教えてもらっています。

救命車が来る前に、心肺蘇生やAEDの処置をしたかどうかで、生存や社会復帰の可能性は大きく異なります(左図参照)。教えてもらったことを忘れず、いざというときに対応できればと思います。ホームページに心肺蘇生やAEDの使い方が載っているのですが、皆さんも確認しておく、万が一のときに対応できるように思います。



全国AEDマップ



応急手当WEB講習



また、(一財)日本救急医療財団全国AEDマップでは、近くにあるAEDの位置が分かるので、スマートフォンにお気に入り登録することを勧めます。

今年度は、食愛キッチンくくうらぶきつちんくの菊池進子先生に「いのち」をテーマに講演をしてもらいました。

命がどのようにできるかを改めて勉強する、良い機会になりました。

②命の講演会

にすることは、体を大切にすることだと気付き、代わりのきかないものだと改めて感じる時間になりました。

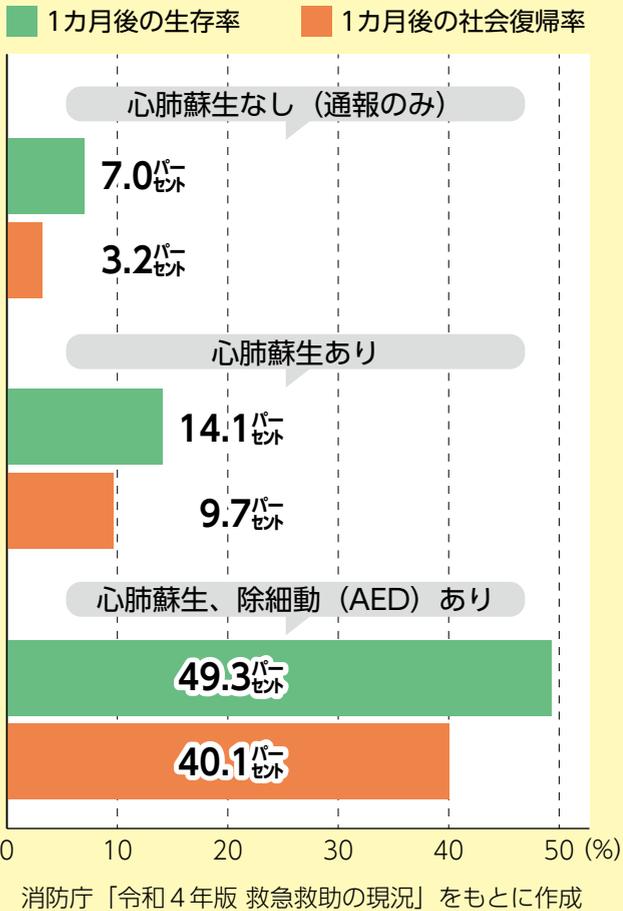
③命の集会

命の集会は、生徒会が主体となって、全校生徒が命について考える時間です。

今回は、自分自身の命について考えようと「自分が生きていて一番実感がわくとき」をテーマにしました。クラス単位で話し合い、オンラインで学年をまたいで意見を発表しました。

みんなからは「怖い思いをしたとき」、「ご飯を食べているとき」、「緊張したとき」、「難しい試験に合格したとき」、「試合に勝ったとき」などさまざまな意見が出ました。意見の多くは、感情が伴うものだったので、感情が変化することで生きていると実感するのかなと思います。

一般市民が心原性心肺機能停止傷病者に心肺蘇生などを行ったかどうかの生存率と社会復帰率の違い (令和3年)



また、菊池先生が、「今後どんな人間になって、どんな生活がしたいか、どんな仕事をしたいか、誰と生きていくかなど、全て、幸せになるように、なれるように決めるのは自分自身」と話していました。これからの人生を歩んでいく上で、とても重要な言葉だと思いました。



先人と文化の読み物教材
広がれ! ふるさと松山の心

松山ゆかりの先人78人と伝統文化や歴史のお話17話を掲載しています。購入方法など詳細は(教)教育研修センター事務所 ☎9895144へお問い合わせください。

「語り継ぎたいふるさと松山 百話 I・II・III・IV」は学校教材です。

年度	これまでの命の集会内容
平成23年度	谷川俊太郎さんの「生きる」という詩をもとに、全校生徒で1つの詩を作成
平成24年度	「命の宣言文」を作成 命の宣言文 一何億人の命の中で生きていく命は精一杯です(自分の命) 二毎日の当たり前で感謝のこと(まわりの命) 三見えぬものを感じ大切にすること(地球上のすべての命)
平成25年度	「今、生きていくために必要不可欠なこと」をテーマにシンポジウムを開催
平成26年度	「命のことだま」を作成 平成26年度「命の集会」命のことだま大賞 兄弟姉妹じゃないけれど笑顔は似とるね わたしたち
平成27・28年度	シンポジウム「今、生きている私たちにできること、しなければならないこと」(平成27年)、「未来の南中生に伝えたい!」(平成28年)を開催
平成29年度	「いじめ0の日」の活動に向けた集会
平成30年度	各学級で「命のことば~私を支えてくれた人」をテーマに話し合い、命の歌を全校生徒で合唱
令和元年度	「今、生きている私たちにできること、しなければならないこと」をテーマに各学級での話し合いと、シンポジウム
令和2年度	命について各学級での話し合い

全校生徒が一緒に考えることはとても大切

日常生活では、命について考える機会がありません。学校で時間を設けることは、とても大切だと思います。今、生きている時間がとてもかけがえのないもので、1秒1秒が大切なんだと気付かされまます。生徒会としても、全校生徒が一緒になって考えられる時間となって、とてもよかったです。

(左から) 河上明煌さん、太田野珠音さん、石元一成さん、山本佑奈さん、日野幸希さん、岸菜洋さん、河上和佳奈さん